



技術者が廃自動車を解体するエコブリッジの工場

・エコブリッジ(八戸)①



■金曜日企画■

廃自動車などのリサイクルを主力事業とする八戸市のエコブリッジは、従業員の豊富な経験に裏打ちされた高度なスキルがアピールポイントだ。同市市川町の本社工場には続々と使用済み自動車が搬入され、技術者集団が解体作業を手掛ける。まだ利用可能な部品を選別、回収し、新たな商品として再資源化する。車体はフォークリフトで持ち上げるなどし、エンジンやタイヤ、各種パーツを取り外していく。自動車はメーカや車種などによって最適な解体方法が異なるため、作業の順番は複雑多岐にわたる。

「自動車の解体は、ほとんどが手作業。壊さないうちに、丁寧に部品を取り外すには十分な経験が必要になる。技術者でもある中里明光社長

手作業で解体 スキル高く

障害者受け入れ工福連携



複写機の分解作業を手掛けるライブワークスの利用者

(59)は、これまでリサイクル技能の高度化に力を入れてきた。

品質基準をクリアした車のパーツは、地元の自動車ディーラーなどに販売する他、ロシアや東南アジアといった諸外国に輸出。性能に優れた日本車は、リサイクル部品でも海外のニーズは高い。八戸港のコンテナヤードを使って輸出するため、地元港湾の利用促進にもつながっている。

中里社長は2017年、グループ会社として障害者就労継続支援A型事業所「ライブワークス」を立ち上げた。現在、エコブリッジに11人の施設利用者を受け入れ、障害者の就労と自立を支援する。八戸の中核産業である工業と福祉を結び付け、「工福連携」として取り組みの拡大を進めている。

人材育成は企業理念でもあり、中里社長は「利用者の能力を引き出してあげることが重要。きちんと教えれば仕事の方法を理解し、工業系の現場でも活躍できることがある」と話す。

施設利用者は主に、パソコンや複写機などの電子情報機器を分解する作業を担っている。労働安全衛生の担当社員からアドバイスを受けながら、ドライバーなどの工具を駆使して手作業で分解し、必要な部品を回収していく。

精密機器を構成する電子基板などには、金、銀、銅といったレアメタル(希少金属)が含まれており、エコブリッジでは基板類を集めて製錬会社へ販売している。「都市鉱山」と呼ばれるリサイクルビジネスの場で、利用者一人一人の努力と技術が光っている。

最近さらに活躍の場を広げ、自動車リサイクルの分野にも進出。パーツの取り外しや分別などを担当する。一部の利用者はフォークリフトの運転免許を取得するなど、現場で欠かせない技術を習得している。

エコブリッジが展開する「リサイクル」と「工福連携」という二つの柱は、ビジネスの枠組みを超え、豊かな社会の実現のために重要な役割を果たしている。

中里社長は「リサイクル事業は、まだまだ成長可能な分野。八戸は工業のまちであり、工福連携の考えに賛同してくれる人も多い。今後も積極的に取り組みを進め、環境にも福祉にも優しい企業を目指していく」と今後の展望を語る。

(松原一茂)